

2025年9月3日 大型投資案件説明会

米国航空機リース会社
Air Lease Corporation買収について
～航空機リース事業が世界最大規模に～

住友商事株式会社

 Sumitomo Corporation | Enriching lives and the world

本日はお忙しい中お集まりいただき誠に有難うございます。
住友商事 輸送機・建機グループの曰下と申します。

この度、当社は、当社が出資する三井住友ファイナンス&リース傘下の航空機リース事業会社であるSMBC AC、ApolloおよびカナダのBrookfieldの3社と共に、米国・航空機リース大手のAir Lease Corporationの全株式を取得することを決定しましたので、案件の説明をさせていただきます。

この買収を通じて、住友商事グループ傘下の航空機リース事業は保有・管理機材数において世界最大規模となります。堅調な成長が期待される航空機リース市場で確固たる地位を築きます。

当社が「中期経営計画2026」で掲げる強みを核とした成長事業の一つである航空機リース事業において、収益基盤の更なる拡大と事業成長の加速を図り、世界の航空輸送ネットワークの発展に貢献してまいります。

それでは、説明に入らせていただきます。

Contents

01 中期経営計画2026

02 航空SBU戦略・利益計画

03 買収案件概要

04 Appendix

本日で説明させていただく内容は、このページに記載の3点でございます。

中期経営計画2026での位置付け

本案件は、中期経営計画2026で掲げる「強みを核とした成長」に沿った航空機リース事業への戦略的投資案件。
成長8事業の一つであるリース分野における競争力の拡張と安定収益の強化を同時に実現します。



■強みを核とした成長



こちらのページは、2024年5月2日に公表した当社の「中期経営計画2026」からの抜粋です。

本中計においては、No.1事業群をテーマに、「強みを核とした成長」および「成長の原動力の強化」を進めています。

強みを核とした成長では、成長分野で強み・競争優位のある事業そのものに投下資本を投入してより強くしていくことを掲げており、スライド右にお示しする通り、そのうちのひとつとしてリース事業を取り上げてまいりました。

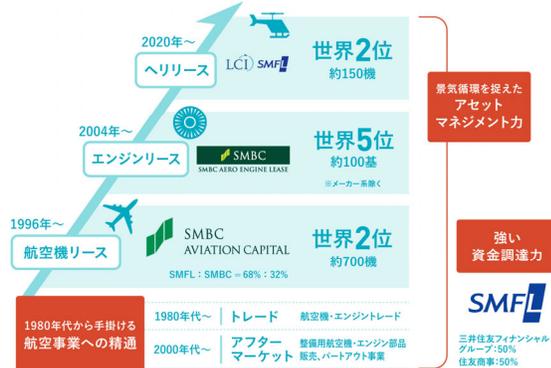
本買収はこの戦略のもと企図していた取り組みの一つであり、2026年度第1四半期のクロージングを経て本中計中に収益貢献が始まることを見込んでいます。

航空SBU戦略とコア・ケイパビリティ

航空SBUは、航空機・エンジン・ヘリのリース事業を軸に、国内他商社の追随を許さないNo.1ポジションを確立しています。

SMBC ACを中心とした世界有数のリース事業を展開し、資産回転型モデルの推進とサーキュラーエコノミーへの貢献を通じて、業界No.1を目指します。

SBUのコア・ケイパビリティ



- ✓ 世界第2位の規模を誇るSMBC ACによる保有・管理機材のプレゼンス
- ✓ 若齢・新世代機材中心の高流動性ポートフォリオ
- ✓ 「Buy & Sell」によるプロアクティブな資産入替
- ✓ 機関投資家との連携による管理ビジネスの拡大

サーキュラーエコノミーの構築への貢献

アフターマーケットビジネス



- ✓ 航空機・エンジン・ヘリのリース事業における資産回転型モデルの推進
- ✓ 退役機材の部品・素材の再利用促進
- ✓ Werner Aero買収によるパートアウト事業への参入
- ✓ 次世代航空機の導入による環境負荷軽減

当社は、民間航空ビジネスの分野で、リース事業を主体に国内他商社の追随を許さないNo.1の地位と収益力を築いています。

この航空ビジネスでは、航空機や部品の「トレード」ビジネスや、そこから派生して航空機の整備や維持、修理に携わる中で培った知見、「航空事業への精通」と、SMBCグループとのジョイントベンチャーである三井住友ファイナンス&リース、SMFLとのパートナーシップによる「強い資金調達力」を武器に、航空機や、エンジン、ヘリコプターなどのリースを大きな柱、注力事業に成長をさせてきました。

2012年にSMBC、SMFL、当社の3社がコンソーシアムを組んで当時資金難に陥っていたロイヤルバンクオブスコットランド傘下の航空機リース会社を買収し、SMBC ACを設立したことで大きく飛躍することとなりましたが、以降も着実に事業を拡大し、足元で、航空機リースでは資産規模で220億ドル、700機の航空機を保有・管理し世界2位、エンジンリースでは世界5位、ヘリリースは世界2位と、いずれもグローバルにトップクラスの規模と実力を兼ね備える事業に育っています。

これらリース各事業が持つ、景気循環を捉えた「アセットマネジメント力」を競争力の源泉、3つ目の強みとし、規模と競争力の掛け合わせでグローバル市場での業界No.1を目指しています。

また、これらのリース事業が抱えるアセットを活かし、航空機のライフサイクルを通じ、サーキュラーエコノミー構築へも貢献していくことで収益性向上を図っています。古くなった航空機や部品の再利用を促進すべく、2022年には米Werner Aero社を買収し、退役機材からのパートアウト事業に参入しました。

さらに、次世代航空機の導入を通じて環境負荷の軽減にも取り組んでおり、持続可能な航空燃料、SAFやカーボンのクレジットなどへの取組など、航空業界の脱炭素化に貢献するソリューションの展開も進めています。

本買収は、こうした航空ビジネスの戦略を更に推し進めるものであり、当社が持つ強みをさらに強化することにつながるものと位置付けております。

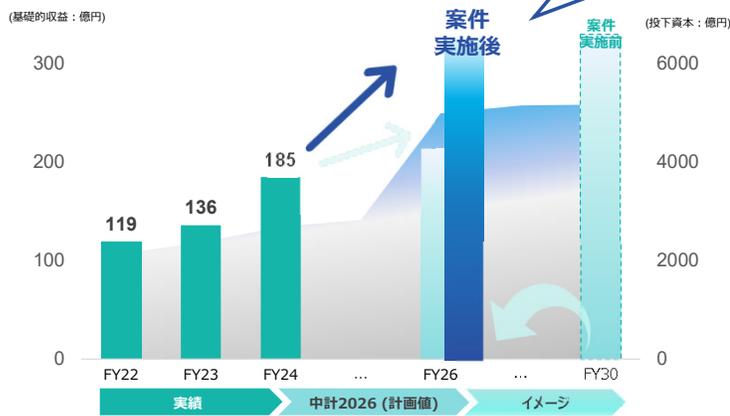
航空SBU利益推移

新世代機材を中心としたポートフォリオと優良なメーカー発注枠の獲得により、航空SBUの競争優位性を強化。

非連結化によるB/S負担の最小化を通じて、持続的な利益成長を実現します。

■利益計画

- ✓ 管理機材の拡大による収益基盤の強化
- ✓ 既存機材の売却益や再投資による収益創出を加速



◆ Sumitomo Corporation | Enriching lives and the world

© 2025 Sumitomo Corporation

■市場概観

民間航空市場は、長期的な成長が続くグローバルな拡大市場

民間航空市場は、コロナ禍以前から年率5~6%の安定成長を続けてきた。今後も2024年~2043年の世界平均旅客数は年率3.8%で増加が見込まれており、新興市場の拡大やLCCの台頭による短距離・多頻度運航の需要増加が成長を後押ししている。

民間航空市場は、外部ショックを受けても回復力が高い市場

航空旅客数は戦争・テロ・金融危機・コロナ禍などの突発事象で一時的な停滞を経験するが、いずれも一定期間を経て回復するシクリカルな業界。2020年には業界全体で▲\$120Bilの純損失、43のエアラインが経営破綻したが、2023年には過去最高益水準まで回復しているとみられる。リース会社もリース料回収遅延や契約リストラクチャリングの影響を受けたが、エアラインと比較すると影響は限定的で、リース業は相対的に高い下方耐性を示す。

航空機需要は今後も大幅な拡大が見込まれる

グローバルの運航機体数は現在約24,000機だが、2043年には約48,000機（新造機は約42,400機）に倍増する見通し。サプライチェーン問題による新造機の製造遅延が拡大しているものの、航空機の需要拡大によりリース市場は活況が続いている。大手リース会社間でのM&Aも進み、規模拡大・競争力向上・経営効率化が加速している。

4

続いて、本買収による航空SBUにおける利益推移をご説明します。

左側のグラフにてお示しする通り、2023年度に136億円、2024年度に185億円を計上し、足元で着実に収益基盤を強化させています。

昨年実施したIR Dayでは、2030年には300億円を超える収益レベルまで成長させる計画を発表しておりましたが、本件買収によりこれを3年以上前倒しで達成します。

その裏付けとして、民間航空市場の活況があります。新興市場の拡大やLCCの台頭による航空機の需要拡大に後押しされ、民間航空市場はコロナ禍以前から年率5-6%の安定成長を続けています。

航空旅客数は、戦争・金融危機・パンデミック等の突発事象で一時的な停滞はあるものの、いずれも一定期間で好転するシクリカルな業界で、2020年のコロナ禍には業界全体が停滞しましたが、2023年には過去最高益水準まで回復しています。

今後も航空機の需要は堅調に推移すると見られており、当社として本件買収を通じたリース事業の拡大を通じ、この成長を確り取り込んでいく考えです。

また、リース会社はエアラインなどと比較すると下方耐性が相対的に高いと言われており、今後コロナのような外部ショックなどが起こった場合でも、影響は限定的、一過的だと考えています。

足元では、サプライチェーン問題による新造機の製造遅延が続く中、航空機の需要に対して供給が追い付かない状態が続いており、本買収により、優良なアセットと発注契約を確保することで、旺盛な市場需要への対応力が一層強化されると考えています。

本件は、規模拡大により機体メーカーとの調達力・交渉力を高め、リスク分散・収益安定化・コスト削減を実現することにより当社航空事業をNo.1に引き上げる重要な取り組みです。

次に、本件買収案件の概要につきまして、多々良より説明させていただきます。

買収案件概要

当社は、SMBC AC、Apollo、Brookfieldと共同で、米国の大手航空機リース会社 Air Lease Corporation（ALC）の発行済全株式を取得する合併合意書を締結しました。買収完了後、ALCは、アイルランドに設置する新会社を通じて「**Sumisho Air Lease Corporation**」として再編されます。

■買収案件概要

買収対象	Air Lease Corporation（ALC）		
取得総額	約74億米ドル（約1兆878億円*） *1米ドル=147円で換算		
出資比率		【議決権】	【経済持分】
	①住友商事	47.505 %	37.505 %
	②SMBC AC	4.99 %	24.99 %
	③Apollo	23.7525 %	18.7525 %
	④Brookfield	23.7525 %	18.7525 %

■新社名



Sumisho Air Lease Corporation

航空SBUの多々良と申します。
ここからは、本買収の概要をご説明させていただきます。

冒頭日下よりご説明の通り、当社は、SMBC AC、Apollo、Brookfieldと共同で、米国の航空機リース大手・Air Lease Corporationを総額約74億米ドルで取得することに合意、契約を締結しました。買収後の新社名は「Sumisho Air Lease Corporation」を予定しています。

当社の出資比率は、議決権ベースで47.505%、経済持分ベースでは37.505%です。

その他、SMBC ACが経済持分で24.99%、Apollo、Brookfieldの両社がそれぞれ経済持分ベースで18.7525%を出資致します。

クローリング時期は、各国のマージャーファイリングや外国投資規制による審査結果及びAir Lease社における株主総会での承認次第でもありますが、2026年度第1四半期を予定しています。

Air Lease Corporation 企業概要

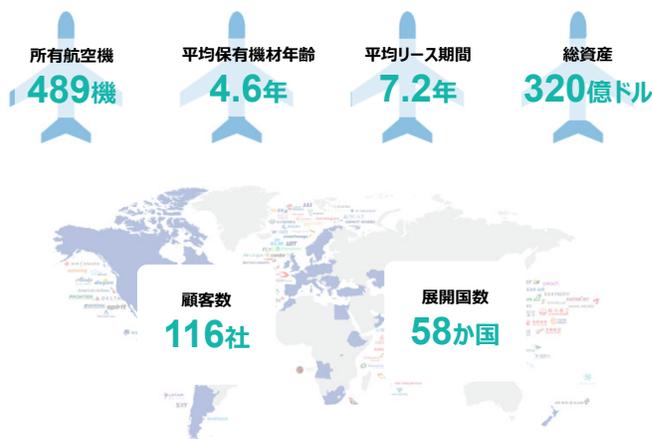
ALCは、世界58か国に展開し、116社の顧客を持つ航空機リース会社です（2024年12月末時点）。

平均保有機材年齢4.6年、平均リース期間7.2年と、若齢・新鋭機材を中心とした高流動性ポートフォリオを有しています。

■会社概要

所在地	本社 米国・ロサンゼルス 拠点 アイルランド・ダブリン 他
主な事業内容	航空機リース事業
沿革	<ul style="list-style-type: none"> 2010年 設立 2011年 ニューヨーク証券取引所上場
従業員	約160名
2024年度実績	売上高: 約27.3億米ドル 純利益: 約 4.3億米ドル

■主要指標（2024年12月末時点）



次に、買収先のAir Lease Corporation、ALC社についてご説明いたします。

ALCは本社をロサンゼルスに構え、2011年より米国・ニューヨーク証券取引所に上場しており、従業員は米国やアイルランドを中心に約160名です。

2024年度の定量面での実績としては、売上が約27.3億ドル、日本円に換算すると約4,013億円で、純利益は約4.3億ドル、約632億円です。

ALC社は、昨年末時点で、58か国116社の顧客を有するグローバルな航空機リース会社です。

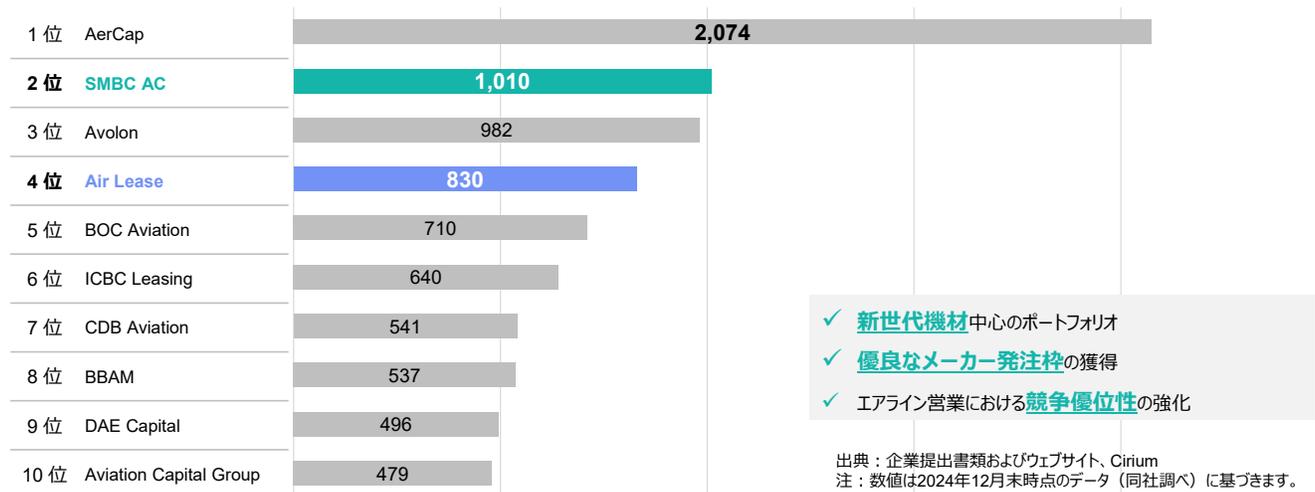
同社は、SMBC ACと同様に、機齢の若い次世代機種を中心に、489機の航空機を保有しており、これに管理機材、発注契約済みの機材を加えた合計では830機、世界でも第4位の規模を誇ります。

ALCは、平均保有機材年齢が4.6年と若く、次世代機の比率の高いポートフォリオを有しているリース会社であり、同社の買収は、当社航空機リース事業全体での戦略にもアラインした案件だと考えております。

世界最大級の航空機サービサーへ

住友商事グループの航空機リース事業は、新たにグループに加わるSumisho Air LeaseとSMBC ACとの合算で、**世界最大級の規模に拡大**。グローバル市場でのプレゼンスを一層強化します。

■主要航空機サービス事業者の保有・管理・発注残 機数 (Owned, Serviced and Committed)



続いて、本件の買収意義をご説明いたします。こちらのグラフでは昨年末時点の保有・管理・発注残の合計機数を比較しております。

当社グループであるSMBC ACは1,010機と、現在世界2位のポジションにあり、ALC社は機材合計830機と世界4位に位置しています。

本買収の完了後には、ALC社の保有する機材の大半をSMBC ACにて管理受託する予定ですので、SMBC ACとALCへの出資により、住友商事傘下の航空機リース事業は保有・管理機材数において世界最大規模となります。

本買収により、優良な機材やOEMメーカーとの発注契約の獲得することで、オペレーターの需要やご要望に応える力をさらに高めてまいります。

当社航空ビジネスのコア中のコアである、航空機リース事業を更に強化することにより、日下より説明ありました航空ビジネスの戦略を力強く推進し、世界の交通インフラの維持・発展に貢献していく所存です。

私からの説明は以上です、ご清聴ありがとうございました。

以上

Appendix





安心して豊かな暮らしを実現する

安全・快適かつレジリエントな航空インフラの整備を支援

航空輸送は災害時の緊急支援、医療搬送、物資供給などにも活用される重要な社会インフラであり、その基盤を支えることで、地域社会の安心と豊かさに貢献



気候変動問題を克服する

ALCが保有する機材の多くは燃費性能に優れた最新鋭機であり、CO₂排出量の削減に寄与

航空業界の脱炭素化は国際的な課題であり、当社は引き続きSAF（持続可能な航空燃料）供給体制の構築に取り組む

当社グループは航空機リース事業を通じて、世界の航空輸送ネットワークの発展に貢献してまいります。

また、新興国や地方都市におけるアクセス性向上・物流効率化・交流活性化を促進することで地域社会のインフラ整備に直結し、経済発展を支援してまいります。